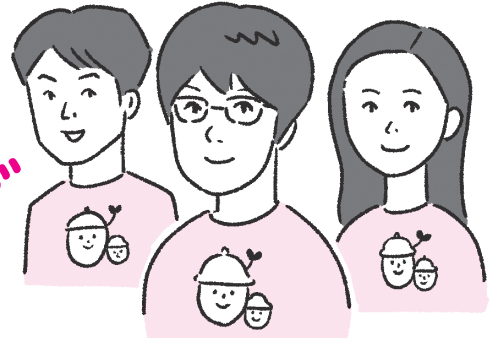


患者さんの“気になる”から
フォローする！

いつ、なにを、どうやって 確認すればいいの？



マネしたくなる 副作用モニタリング



編集 NPO法人どんぐり未来塾 佐藤 ユリ

第5回

副作用に対する多剤処方を疑った症例

NPO法人どんぐり未来塾 朝倉 敏夫, 佐藤 ユリ

CASE 93歳女性のA.Kさん

約2週間前に介護施設へ入居。前医から処方された持参薬を継続服用中。介護施設の職員（以下、施設職員）から、「口渇の訴えがある」と入居者の処方箋を受け付ける薬局に相談があった。

Rp1	コハク酸ソリフェナシン錠5mg	1回1錠	
	アムロジピン錠5mg	1回1錠	
	アルファカルシドール錠1μg	1回1錠	
	バルサルタン錠80mg	1回1錠	1日1回朝食後
Rp2	酪酸菌製剤	1回2錠	
	アスパラカリウム錠300mg	1回2錠	
	酸化マグネシウム錠500mg	1回1錠	1日3回毎食後
Rp3	芍薬甘草湯	1回1包 (2.5g)	
	センナ・センナジツ顆粒	1回1包 (1g)	1日1回就寝前

併用薬：ヒアルロン酸Na点眼液0.1%（眼科より）

体質：便秘しやすい

副作用歴：なし

喫煙：なし

飲酒：なし

身長：151cm

体重：45kg

患者さんのココが“気になる”

- 処方薬の種類が多く、副作用に対処するための薬剤が処方されている可能性がある
- 口渇はコハク酸ソリフェナシンの抗コリン作用による可能性がある。便秘の増悪や認知機能の低下など、コハク酸ソリフェナシンによる他の副作用症状があるかを確認したい
- バルサルタンとカリウム製剤の併用により血清カリウム値が高くなる可能性がある
- グリチルリチン製剤の服用により、血清カリウム値が低くなる可能性がある